

堺行基の会 会報

第44号 平成29年9月20日

平成29年4月2日史跡巡り記録

和歌山・泉南紀行

多和マリ子

出発時は雲一つない春の青空でした。前回はいにくの雨もようでしたが、今日は一日中雨の心配はいらないようです。

最近では少し多い二十六名の参加を得て三国ヶ丘駅前をスタート、昨日和歌山まで全線開通した第二阪和国道を南下します。

私たちの生活圏である、堺以南の市町村を通り過ぎ、一路和歌山の加太へ急ぎます。

和歌山市大川の海岸近くの**報恩講寺**に到着します。この寺について案内役の鳥居さんは、『行基事典』

発行 堺行基の会

事務所 堺市中区毛穴町462-8 吉田方

TEL ○七二二七二一五九七二

ホームページ <http://gyouki.jp>

には安置の勢至菩薩像が行基作との伝承がある、とのことでした。

お寺の案内役の方は、寺の歴史について丁寧な解説して下さいました。それによると法然上人二十五霊場の第八番目に当ります。

承元元年（一二〇七）十二月、法然上人は赦免されて讃岐の配所からの帰路、海上が荒れたため、油生浜に漂着された。この時土豪孫右衛門や村人が、上人の慈顔温容を拝し、上人のお世話をすることになったという。

上人がこの地を離れるとき村人は名残を惜しんで帰京をお止めしたので、上人は自ら桜の木にお姿を刻まれ開眼の上、村人に授けられた。またこの余材で百万遍大念珠を作られた。この尊像を安置するため建



和歌山市 報恩講寺

立された堂宇が報恩講寺だという。お堂に靴を忘れた方が云うのに、取りに行ったところ、寺の歴史を説明された方から、皆さん非常に熱心に聞いておられたので感心した、と云われたそうです。

行基伝承寺院が日本中にあるのは、いつの時代にも行基弟子を自認する僧侶がいたから、行基を尊敬するその後の弟子たちが関わっているのではないかと鳥居さんの歴史教室で教わりました

さて食事をする紀三井寺近くのレストラン「はやし」へ移ります。予定より少し遅れましたが、料理はすでにそろって並べてありました。



レストラン「はやし」にて

種類も豊富で、美味しく頂戴致しました。鉄板の肉は先に焼き、その後野菜を焼けばもう少し美味しく頂けたかな？

満腹になって退席し、土産として名産の柑橘類を買いました。

午後は高速阪和道に出て泉南インターまで行きます。

泉南市信達岡中の林昌寺は天平



レストラン「はやし」にて

山林昌寺と云い、庭園は文字通り一面つつじの林です。五月の満開期はさぞやと想いました。

庭園の作者・重森三玲は、岸和田城の「八陣の庭」を作った人です。



泉南市 林昌寺

近代現代の作庭家です。



泉南市 林昌寺

次に訪ねたのは行基の師匠の一人道昭が建立したという大字牧野の往生院跡で、小栗街道沿いにあります。六七九年に天武天皇の勅願寺として創建されたと伝えます。中世以前は七堂伽藍を有する大寺院で



泉南市 往生院

したが、豊臣秀吉の根来攻めの兵火によって、堂塔すべて焼失したという。創建者である道昭は、第二回遣唐使の一人として留学した際、唐の僧侶玄奘三蔵の教えを受け、ついで道昭がその教えを行基に伝授して行基が教えを花開かせたともいいます。道昭は遺言により火葬され、日本

での火葬者の第一号になりました。これらのことは鳥居歴史教室で教わりました。

境内には、建立当時のものであると思われる貴重な二面石仏が佇んでいた。

次の訪問地、**国史跡海会寺跡**は泉南市信達大苗代の一岡神社の中にあります。昭和五十八年（六十二年）の発掘調査によって、法隆寺式伽藍配



泉南市 海会寺跡

平成 28 年度事業報告

- | | | | | | |
|-----|-----|----|------|----------------------------|---------------|
| 28. | 4. | 24 | 役員会 | サンスクエア堺 | 会員総会の準備 |
| | 5. | 28 | 会員総会 | サンスクエア堺 | |
| | | | | 平成28年度事業報告・同会計決算報告・同決算監査報告 | |
| | | | | 平成29年度事業計画案・同予算案・同役員案 | |
| | 6. | 26 | 役員会 | サンスクエア堺 | |
| | 9. | 24 | 役員会 | サンスクエア堺 | 会報42号発行・市民祭準備 |
| | 10. | 22 | 講演会 | 東文化会館 | |
| | | | | 若井副会長「行基と僧尼令」 | |
| | | | | 森副会長「雇役民と行基」 | |
| | 11. | 26 | 史跡巡り | 大阪市内方面 | |
| | 12. | 17 | 役員会 | サンスクエア堺 | 1月学習会の準備 |
| 29. | 1. | 28 | 学習会 | サンスクエア堺 | |
| | | | | 吉田会長「道鏡（～772）とその学問」・茶話会 | |
| | 2. | 25 | 役員会 | サンスクエア堺 | 史跡巡り準備 |
| | 4. | 1 | 史跡巡り | 紀州・泉南方面 | |

平成28年度収支決算書

(収入の部)			
科 目	金 額	摘 要	
会 費	190,000 円		
参 加 料	336,000 円	史跡めぐり	
		11月	154,000 円 (22名)
		4月	182,000 円 (26名)
雑 収 入	65,550 円	資 料 代	10,300 円
		文団連補助	41,250 円
		寄 付	14,000 円
収 入 合 計	591,550 円		
前年度繰越金	286,592 円		
合 計	878,142 円		

(支出の部)

科 目	金 額	摘 要
会 場 費	29,100 円	
通 信 費	43,396 円	郵 送 費
事 務 費	5,150 円	チラシ・封筒
会 報 費	44,280 円	
資 料 代	54,000 円	
行 事 費	400,621 円	11月 213,497 円
		4月 187,124 円
雑 費	33,761 円	振 替 料 9,000 円
		文 団 連 会 費 4,000 円
		文 団 連 連 絡 費 1,000 円
		茶 話 会 6,545 円
		ドメイン取得 13,216 円
		立 上 料 0 円
支 出 合 計	610,308 円	
次年度繰越額	267,834 円	
合 計	878,142 円	

銀行預金	44,367 円
郵便	154,890 円
現金	68,577 円
合計	267,834 円

会計監査の結果、適正と認めます
堺行基の会 会計監査 仙波 恒民

置であることが分かりました。

大阪府内では、四天王寺に次ぐ古さだそうで、また寺院の隣に営まれていた豪族集落の様子などが明らかになりました。発掘出土品は遺跡内の古代史博物館（泉南市埋蔵文化財センター）に展示されていますが、日曜は閉館とのことではあります。とうに残念でした。

ここは昭和六十二年に国史跡として指定されています。

最後の訪問地は**泉佐野市の青空市場**です。ここは早朝に鮮魚のお買い得品があるという所で、我々が行つたのは午後3時すぎで閉店準備中でした。「まけとくよ」の声につられて、皆さん沢山お土産物を買っていました。

今回の史跡巡りはゆつたりとした行程でしたので今後も安心して参加させて頂だけると思いました。計画した役員の方々に感謝します。



泉南市 林昌寺

平成29年4月史跡巡り参加者

井戸久美子・大川法子・小室孝子
加藤孜子・佐藤盛夫・仙波恒民
谷口康子・多和マリ子・寺川光俊
戸松生吉・鳥居俊作他2名
中井国芳・中井千恵・中野博之
中野昌人・西井幹雄・西野明美
東野信吾・畑中雄一・前田収
南山明弘・森明彦・若井敏明
吉田靖雄

平成
29
年
5
月
28
日

会員総会開催される

会員総会はＪＲ堺市駅前サンスク
エアにて開催された。吉田会長の挨拶に続き、中井国芳氏を議長に選び、
①平成28年度事業報告が吉田会長から

② 同年度収支決算書が東野信吾
会計から

③ 監査報告が仙波恒民監事から

④ 29年度事業案が会長から

⑤ 同年度予算案が東野会計から

⑥ 役員案が会長から

それぞれ提案され、いずれも賛成

多数で承認された。



総会での吉田会長

平成29年度事業案

会員総会 29. 5. 28 サンスクエア堺 決算・予算等審議

役員会 5回 サンスクエア堺
①4. 23 ②6. 25 ③9. 24 ④12. 17 ⑤2. 25

講演会 29. 10. 22 東文化会館フラットホール 森副会長・若井副会長
学習会・茶話会 30. 1. 28 サンスクエア堺 吉田会長

史跡巡り 2回 11. 26 4. 1

会報発行 2回

平成29年度収支予算案

(収入の部)

科 目	金 額	摘 要
会 費	198,000 円	3,000円×66名
参 加 料	350,000 円	史跡めぐり 7,000円×25名×2回
雑 収 入	60,000 円	文団連補助・資料代
前年度繰越金	267,834 円	
合 計	875,834 円	

(支出の部)

科 目	金 額	摘 要
会 場 費	30,000 円	会場使用料
通 信 費	45,000 円	郵 送 費
事 務 費	20,000 円	事務用品、レジメ
会 報 費	90,000 円	2 回
資 料 代	80,000 円	1 回
行 事 費	450,000 円	史跡めぐり 2回
雑 費	50,000 円	振替手数料・茶話会等
支出合計	765,000 円	
予 備 費	110,834 円	
合 計	875,834 円	

平成22年度繰越費	約140万円
平成23年度繰越費	約128万円
平成24年度繰越費	約68万円
平成25年度繰越費	約51万円
平成26年度繰越費	約42万円
平成27年度繰越費	約28万円
平成28年度繰越費	約27万円

平成成29年度役員案

会 長 吉田 靖雄
副会長 森 明彦
副会長 若井 敏明
事務局長
会 計 東野 信吾
監 事 仙波 恒民
幹 事 鳥居 俊作
幹 事 中井 国芳
幹 事 西井 幹雄
幹 事 牧野みづほ

総会後の講演

717年（養老元）の行基弾圧の契機

吉田靖雄

はじめに

717年（養老元）元正天皇は、行基と弟子らは布教に名を借り集団で托鉢行を行い百姓を妖惑している、これは戒律と法令に違反する行為である、と厳しく糾弾した。ついで722年には、百姓を妖惑する僧尼らは杖罪を課し郷里へ送還せよと命令した。

上記のいわゆる行基への弾圧の契機について、当時の日本知識人が仰ぎ見た中国の事例が影響をあたえた、と考えられるのでそれについて論じてみたい。

1. 養老年中の行基の徒弾圧と中国反乱教徒との関係

中国の社会では古くから、天子が不徳ならば天命は去り、別の有徳者が天命を受けて新王朝を開くのを肯定する易姓（えきせい）革命が認められたので、不徳腐敗の王朝に対して武力による反乱攻撃が合理化された。そのなかで注目すべきは宗教団体の武力反乱があり、王朝崩壊の契機をなした例がいくつもある。

太平道の乱 紀元二五五年に成立した後漢王朝は、二世紀の末、数十万人と伝えられる宗教結社太平道を組織した張角（一八四）一派を危険視し抑圧したので、張角らは王朝の転覆を企画し中平元年（一八四）挙兵した。これが黄巾の乱で、張角の病死により乱は失敗に終わったが、後漢王朝は決定的打撃をうけ紀元二二〇年に滅亡した。

張角は黄老の学んだた道教系の人で、お札・神水・呪文（符水呪）による病氣治療を善くし人々の信

頼を得た。（『後漢書』皇甫嵩伝）。**弥勒教徒の乱** つぎに五世紀の北魏の時代に弥勒教徒の反乱がある。弥勒菩薩は仏滅後五六億七千万年後にこの世界に生まれ出て、すべての人々を済度するとされる。弥勒出現の世は世直し・革命の世の中であり、今がその時代であるという主張が現われた。

僧の法慶は北魏の五二五年、大乘教を組織し反乱を起した。彼は妖術を使つたが、かれが合成した薬剤を服用すると、親族の関係を忘れたという。殺人が奨励された。教徒は「新仏出世して衆魔を除去す」をスローガンに、役人・僧尼を殺し役所・寺院を放火焼尽させた（『魏書』十九、元遥伝）。

隋の大業九年（六三三）僧海明は弥勒仏出現を唱え民衆を組織した。かれは他人の见たい夢を操ることができ、多くの民衆の熱狂を引き出し

武装勢力は数万を数えた。自ら皇帝を称し反乱を起したが、官軍の反撃により壊滅した（『隋書』楊義真伝、重松俊章「唐宋時代の弥勒教匪」『史淵』3、一九三二年）。

2. 七～八世紀日本貴族・知識人の大陸傾倒

中国では秦の始皇帝以後、君主は皇帝の称号を使用した。唐の高宗（628～83）は674年天皇と称し、皇后は天后と称する制度に改めた。

これは中国で天皇号が用いられた最初であり、日本の天皇号は中国の例になつたものであることは明瞭で、天皇号の採用は674年以後の天武天皇・持統天皇の時代であつた。

この例に見るように当時の貴族・知識人らは大陸の情報に極めて敏感であり学習したのであつた。

これら反乱記事を載せる『後漢書』『三国志』『隋書』などは早く

日本にもたらされ、『日本書紀』『続日本紀』編纂にあたり参考にもされたから、養老元年（717）の時点で中国の教養を身につけた知識人・官僚らにとつて教徒らの反乱事件は既知の事実であつた。かれらが中国の教徒反乱の事件と展開中の行基の活動を比較したとき、類似点に多さに驚いたであろう。

①行基は少なくとも五十余人の出家の弟子をもち、その下に在家の郡司級の下級貴族、さらにその下に郷長クラスの識字層の弟子をもつた。集団は極めて組織されていた。集団内が組織されていた点で中国の反乱教徒らと軌を一にする。

②行基の布施屋は街道脇に設けられ、役民や貢調の運脚夫を収容し寝床と飲食物を供与し集団に同調する人々を獲得しようとした。五斗米道の義舎と形態・内容が一致している。

③行基は実態は不明ながら「靈異

神驗」を現す人と当時の人々に認識されていた。反乱教徒らのリーダーたちも特異な能力を持ち多くの人々を魅惑した点で一致している。

以上の点は、中国の典籍を読みなれた官僚・知識人・帰朝した留学僧留学生にとつて容易に読み取れることであり、かれらの助言によつて為政者らは養老元年の抑圧を行うに至つたのであろう。しかし行基の活動を実際に観察すれば容易に理解されるのだが、民衆的寺院・交通・農業などの公共的施設の建設であり、反乱教徒らの破壊行動とは正反対の生活の安定増強を目的とするものであつた。

編集後記

カラー印刷にしてみました。思ったより印刷費は安くあがりました。インターネットの環境があれば、堺行基の会のホームページをご覧になつて下さい。

吉田